体育科学習指導案

平成２７年１０月２０日（火曜日）　第５校時５年２組（体育館）　指導者　Ｔ１　廣井　沙恵
Ｔ２　篠崎　隼人

１　単元名　跳び箱運動

２　考察

(1)　教材観

①学習内容：学習指導要領上の位置付け

・B 器械運動

○次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。

ウ　跳び箱運動では、基本的な支持跳び越し技を安定して行うとともに、その発展技を行うこと。【技能】

○運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動したり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【態度】

○自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫できるようにする。【思考・判断】

②主な伸ばしたい資質・能力

・安定した開脚跳び、大きな開脚跳び、かかえ込み跳び、台上前転、大きな台上前転などの技能

・運動に進んで取り組むこと

・課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶこと

③そのために必要な指導・学習活動

・技能を確実に習得できるよう、スモールステップ型の授業形態を取り入れる。

・運動の苦手な児童へ体育専科が個別指導を行い、成功体験を通してやる気を引き出す。

・それぞれの課題に応じて選択して練習ができるよう、課題別の練習の場を設定する。

・動きのポイントを明確にした学習カードを活用し、動きを互いに見合う中で技能を高めていく。

④今後の学習の活用

・自分の力で楽しみ、進んで運動に取り組めるような運動習慣を付ける。

・自分の課題に気付き、自ら進んで実践できるようにする。

・解決方法を協働で学び、よりよい活動のために解決方法を考える。

(2)　児童の実態及び指導方針（男子２０名　女子１７名　計３７名）

①既習の学習内容

・第４学年の「跳び箱運動」において、開脚跳び、台上前転、発展技としてかかえ込み跳びを行ってきている。

・体育館の授業時には学年や単元に応じたサーキット運動に取り組み、回転感覚や支持感覚、柔軟性を養ってきている。

・運動の苦手な児童に対し体育専科が関わり、個別指導を行うことで、低位群の児童も技能の高まりを感じ、「次もやりたい」などの意欲が高まっている。

・１学期に行ったマット運動では､スモールステップ型の学習カードを用いて技のポイントを見合い、アドバイスをし合う学習を通して、お互いの良さを認めながら技能を高めることができた。

②実態及び指導方針

・担任と体育専科の役割分担を明確にする。T1 は担任とし、授業の導入・追求・まとめなど授業を進める役割を中心に行う。T2 は専門性を生かし、練習の場の設定や示範やポイントの提示などの技能指導を中心に行う。

＜関心・意欲・態度＞

・アンケートでは、全員の児童が「体育は好き」と答えているが、「跳び箱運動は得意」と答えている児童は１８名、「嫌い」と感じている児童は７名と、跳び箱運動に対しては苦手意識を持ってい

る児童が多い。
・苦手と感じている児童も「個別に教えてほしい」「できるようになりたい」との思いを持っていた。実践１では、スモールステップ型の学習カードを用いながら苦手な児童を中心に体育専科が積極的に関わり、苦手な児童も１名を除きすべての児童が楽しく活動に取り組むことができた。そのため、跳び箱へのアンケートでは、技能に対しての不安を抱いてはいない。
・アンケート調査では、「新しい技に挑戦したい」「高い段へ挑戦したい」など意欲的な部分も見られるが、７割の児童が「けがをすること」や「跳び箱から落ちること」への不安を抱いている。
・実践１を通して、1 名を除いたすべての児童がスモールステップでの練習の大切さを感じている。
・（指導方針）担任は、全体の動きを把握し、安全面に配慮をしながら規律ある雰囲気づくりに努め、楽しく運動に関われる環境を整えていく。また、運動が得意な児童を中心に、できばえを評価したり賞賛したりして、意欲をより高められるようにする。
・（指導方針）苦手意識を持っている児童に体育専科が関わり、声かけや補助、さらに細かい場の設定を行い、最後まで意欲的に取り組めるようにする。
・（指導方針）技の習得の流れを課題の確認、課題別の追求練習、できばえの確認とスパイラル型に設定することで、できるようになった技の定着を図り、新しい技への意欲を持てるようにする。
・（指導方針）体を前に安心して投げ出せるよう、着地点の高さを上げたり、エバーマットを用いたりするなどの場を設定する。
・（指導方針）スモールステップの内容を設定し、児童の恐怖心を減らしながら、無理なく技能を高められるようにする。
・（指導方針）スモールステップ型の学習カードを利用し、技のできばえの伸びを確認することで、「分かる・できる」の実感を持てるようにする。
＜思考・判断＞
・マット運動の授業では、スモールステップの学習カードを利用し、それぞれの課題に分かれ、動きのポイントを意識しながら練習に取り組むことができた。しかし、仲の良い友達同士で一緒に活動している様子が見られるなど、自分の能力に適した課題を見付けられない児童もいた。
・（指導方針）学習カードや文科省デジタル教材から、動きのポイントをクラス全体で見つけ共有し、その中から自分の課題を捉えられるようにする。
・（指導方針）自己の課題に応じた練習の場や段階を自己決定させることで、常に目標を持つことができ、無理なくねらいが達成できるようにし、やる気を引き出す。
・（指導方針）つまずくポイントを提示し、そのつまずきに応じた練習の場を例示しておくことで、自分で課題を捉え、練習の場を選択できるようにする。
・（指導方針）同じ練習の場を選択した友達と動きを見合う活動を取り入れることで、自己の動きを理解しながら、課題に取り組めるようにする。
・（指導方針）学習カードは、どのステップでも見る課題の局面を統一し、苦手な局面に絞った練習ができるようにする。
・（指導方針）課題に向けて練習して技が上達した児童に、本時のまとめの場面でどのように工夫してできるようになったかを発表させ、その段階でつまづいている児童の課題の手立てにする。
・振り返りの場面で次時の課題を学習カードに書かせることで、次時の見通しを持てるようにする。
＜技能＞
・開脚跳びで跳ぶことができる児童は３４名であるが、両足をそろえて踏み切れない児童は１２名いる。
・かかえ込み跳びでは、２２名の児童が高さ４段の跳び箱を横で跳び越えることができる。
・台上前転において、台の上で前転できる児童は２９名いるが、両足で踏み切ってなめらかに回転できる児童は１０名である。
・（指導方針）動画を活用し、良い演技やつまずきのある演技を比較させながら、練習後の目標とする姿をイメージできるようにする。

・（指導方針）技を練習した次の時間にできばえを確認し、さらに追求して練習する時間を設けることで、技能の向上、確実な習得へつなげられるようにする。
・（指導方針）運動の苦手な児童に体育専科が関わり、より細かいスモールステップを設定したり、技のポイントを確認しながら練習に取り組ませたりしながら、段階的に技能を高められるようにする。

３　センターの研究との関わり

本研究のテーマは、「器械運動における分かる・できる実感を持たせながら技能向上を図る指導の工夫～スモールステップ型の学習カードの作成と活用を通して～」である。本単元では、自己の課題を理解し、友達と技のポイントを見合いながら技能を高められるよう、課題別の練習の場を用意したり、スモールステップ型の学習カードを作成・活用したりする。その際、学級担任との T．T による指導の中で苦手意識を持っている児童へ体育専科が関わり、個別指導や声かけを行ってやる気を引き出す。さらには、自分の力に合った技を組み合わせた演技発表会を設定し、目標を持たせる。これらは、平成２７年度学校教育の指針「運動のねらいや技能のポイントを明確にした授業」「一人一人の運動量を確保するとともに、他者と協働した学習活動を設定する」に沿ったものであると考える。また、はばたく群馬の指導プランの第５・６学年の課題「自己の課題を見付け、課題にあった練習の場や段階を選び、運動する」の課題の解決の手立てになると考える。

４　単元の目標

○運動に進んで取り組み、約束を守り、助け合って運動をしたり、場や機器・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【運動への関心・意欲・態度】
○自己の能力に適した課題を知り、その課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができるようにする。
【運動についての思考・判断】
○基本的な支持跳び越し技を安定して行うとともに、その発展技をできるようにする。
【運動の技能】

５　指導計画（全７時間予定）※詳細な「指導と評価の計画」は、別紙参照

評価規準	運動への関心・意欲・態度	・技を高めたり組み合わせたりする楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで運動に取り組もうとしている。 ・約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ・器械・器具の準備や後片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ・運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。
	運動についての思考・判断	・課題解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 ・自分が取り組む技のポイントを知り、技ができるようにするための運動の行い方を工夫している。
	運動の技能	・自分の力に合った安定した基本的な支持跳び越し技、及びその発展技ができる。

時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		活用させたい技能等	思考力・判断力等	
第１時	課題把握	・サーキット運動の確認 ・自分のできる技の確認	・学習やサーキット運動の流れの理解	・サーキット運動 ・開脚跳び かかえ込み跳び

				台上前転、
第２時 ～ 第６時	課題追究	・サーキット運動での基本的運動感覚の習得 ・基本技能の習得 （自分の課題に合った場を選択し、スモールステップ型の学習カードに書かれたポイントを基に練習を行う。） ・ペアによる見合い （同じ練習の場を選択した友達と動きを確認したポイントを基に見合い、自分の課題を追求する。）	・自分の課題を理解する力 ・自分の課題に適した場を選択する力 ・技のポイントを理解し練習したり、友達に伝えるたりする力	・サーキット運動 【第２時～第６時】 ②安定した開脚跳び、大きな開脚跳びの課題を捉え、課題別練習 ③大きな開脚跳び課題別練習 かかえ込み跳びで自分の課題を捉え、課題別練習 ④かかえ込み跳びの課題別練習 ⑤安定した台上前転、大きな台上前転の課題を捉え、課題別練習 ⑥安定した台上前転、大きな台上前転の課題別練習
第７時	まとめ	・３つの技の演技発表会 ・友達の技能の伸びを認められる力	・技のポイントを押さえながら友達の演技を見る力	・発表会へ向けて、最後の練習 ・演技発表会 ・単元の振り返り ・振り返り

６　**本時の展開**（４／７）

(1)　**ねらい**　前時に捉えた各自のかかえ込み跳びの課題に合った練習の場を選び、技のポイントを意識しながら、段階的に技能を向上することができる。

(2)　**準　備**　スモールステップ型の学習カード、跳び箱、マット、踏み切り板、ロイター板、調整板、エバーマット、ホワイトボード、フラッシュカード、めあてカード、ケンステップ
PC、プロジェクター、文科省デジタル教材

(3)　**展　開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童生徒への支援　◇評価）
１　あいさつ、準備運動、サーキット運動を行う。	７分	○前時までに学習した動きを意識しながら、短時間で全身運動を楽しめるようにする。特に、開脚跳びでできるようになった踏み切りの強さや腕の振り出しを意識させる。 ○サーキット運動で、踏み切りや振り出しを意識できている児童を積極的に賞賛し、自信を持たせる。
２　本時のめあてを知る。		
［本時のめあて］　自分の課題にあった練習の場を選んで、かかえ込み跳びの技を上達させよう。		
３　かかえ込み跳びのポイントを確認し、自分の課題を確認する。	８分	○文科省のデジタル教材や学習カードのポイントを確認し、それぞれの練習の場で課題に取り組める

		ようにする。
・開脚跳びと同じで、踏み切りは強く。 ・「突き放し」は、パンと大きな音がするくらい力強く。 ・踏み切りをしたら胸に早く引きつける。		○開脚跳びと同じポイントとそうでないポイントを確認することで、つながりを持たせるとともに、「突き放し」と「足の引きつけ」に視点を絞って練習に取り組めるようにする。 ○「突き放し」のアドバイスをもらいたい時は赤、「足の引きつけ」のアドバイスをもらいたい時は白の帽子にさせることで、自分の見てほしい課題を誰にでも分かりやすくし、適切なアドバイスをもらえるようにする。
○２つの動画を見比べて、違いに気付かせる。 ・突き放しを強くやると、腰が高く上がるようになるんだな。 ・自分も高く跳び越えられるようになりたいな。 ・足を早く引きつけると良いんだな。 ・強く突き放しをすれば、腰が高く跳べるようになるんだな。		○文科省のデジタル教材の動画を確認し、課題を達成した時の目標とする動きのイメージを持てるようにする。（Ｔ２） ○良い動きと比較を行い、本時の課題の突き放しや引きつけができることで腰が高く上がることに気付けるようにする。（Ｔ２）
○場の説明を行う。		○それぞれの練習の場の意義を伝えることで、課題を明確にして、練習の場を選べるようにする。 ◎つまずきの例を示し、練習の場をある程度伝えることで、課題を捉えにくい児童も場を選べるようにする。
４　一人一人の課題に合った練習の場を選んで練習に取り組む。 St1 ウサギ跳び→マットの上へ St2 段差の違う跳び箱をウサギ跳びで St3 ロイター板でステージへウサギ跳び St4 かかえ込み跳び（横） St5 かかえ込み跳び（縦） ・突き放しで音が出るようになった。 ・胸に素早く引きつけると怖くないぞ。 ・縦にもチャレンジしてみよう。 ・○○ちゃんの技がカードのようになったね。	１５分	○友達の技を順番に見合うルールを作ることで、仲良しの友達と楽しく練習するのではなく、課題解決に向けた練習に取り組める環境を作る。 ○安全面を配慮し、ここでは７・８段の縦で跳ばないようにする。 ○Ｓｔ４の児童に対して、つまずきの例を示し、そのつまずきに応じた練習の場を例示しておくことで、自分で課題を捉え、練習の場を選べるようにする。 ○足がひっかかりそうで怖いと思う児童に対して、エバーマットをおいた場を用意し、安心して遠くに振り出せるようにする。 ○腕の振り出しの良くなってきた児童には、調節板を入れるよう声をかけ、より遠くから大きく踏み切れるようにする。 ◎なかなかステップアップできない児童に、より細かいアドバイスを行い、分かる・できる実感を持てるようにし、自信につなげる。（Ｔ２） ◎運動の苦手な児童に積極的に声をかけ、技能の高まりを感じさせ、やる気を引き出す。（Ｔ２）
５　良くできている児童の跳び方をみんなで見合う。	３分	○良い動きを確認し、自分には何が練習で必要であるかを考えさせ、課題を持って次の練習に取り組

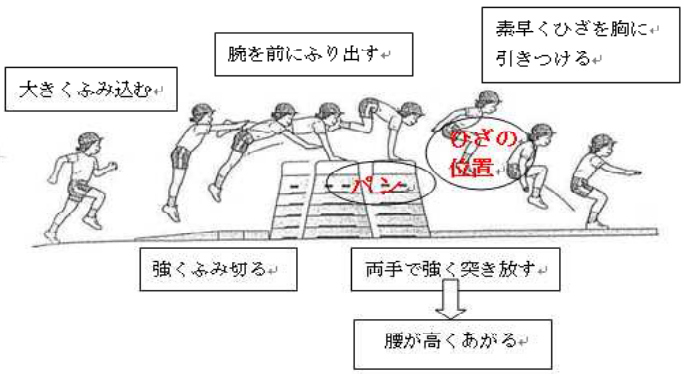
・突き放しの練習をすると、あんなにも高く跳べるようになるんだな。 ・引きつけをもっと早くできると、よりきれいに高く跳べそうだな。		めるようにする。（Ｔ２）
6　チャレンジタイムで、今日の成果と次の時間の課題をつかむ。 ・跳び箱の上に足の裏で乗れるようになったよ。 ・Ｓｔ３で高く突き放す練習をしたから、だいぶ腰が高く上がるようになったぞ。もう少しで跳べそうだ。次は引きつけを頑張ろう。 ・縦も遠くに手をつくだけで、横と同じ感じに跳べそうだな。 ・引きつけを早くしたら、縦で跳べるようになったぞ。もっと高い段を跳ぶために、踏み切りをもっと強くしてみよう。	７分	○全児童にＳｔ４・５での跳びにチャレンジさせ、自己の伸びに気付いたり、新たな課題に気付いたりできるようにする。 ◎怖くてなかなかできない児童には、Ｓｔ１のマットと同じ高さの跳び箱を用意し、マットと同じように跳ばせ、跳び越すことで、できる実感を味わわせて、次の高さへ自信を持って取り組めるようにする。（Ｔ２） ◇自分の課題に合った練習の方法や場を選び、技ができるようにするための運動の行い方で練習をすることができる。 （行動・ワークシート）【思考・判断】
5　学習を振り返り、自己の伸びを確認し、次時の課題を持つ。 ○学習カードに記入する。 ○今日の感想を発表する。 ・今日は、突き放しの音を強く出す練習を行ったら、腰が高くあがるようになり、横が跳べるようになりました。次回は、手を遠くに降りだして引きつけを早くし、縦を跳べるようになりたいです。 ○次時の課題を書く。	５分	○学習カードをもとに１時間での伸びを確認し、「できる・分かる」の実感を持たせる。 ○練習を通して技が上達した児童の取り組み方を発表させることで、その段階でつまづいている児童の次時の課題につながる手立てにする ○苦手な児童も、課題に応じた場での練習により、技能が向上したことを紹介し、次時への意欲につなげられるようにする。

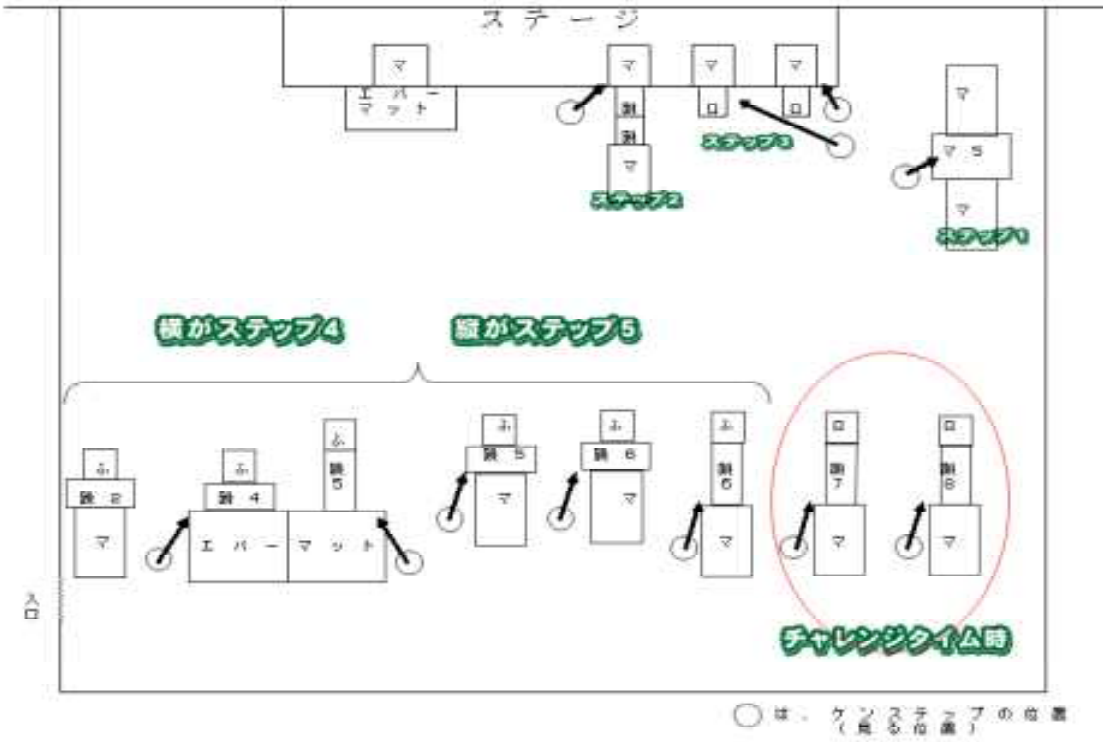
7　板書計画

１０月２０日　　５－２　　跳び箱運動④

本時のめあて①
　自分の課題にあった練習の場を選んで、かかえ込み跳びの技を上達させよう。

かかえ込み跳びのポイント



目標→腰を高く

8　場の設定